

2023 年度 事業報告

施設名 グループホームきぬた

1 利用状況

事業種別： 重度身体障害者グループホーム 定員 5人 入居者数 5人

(1) 障害支援区分

区分6	4人	区分5	1人	区分4	0人	区分3以下	0人
計	5人						

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3~7級	なし	
愛 の 手 帳	1度					0人
	2度	1人				1人
	3~4度					0人
	なし	4人				4人
計		5人	0人	0人	0人	5人

(3) 年齢、性別

10代以下	0人	40代	1人	男性	5人
20代	0人	50代	2人	女性	0人
30代	0人	60代以上	2人	計	5人
計			5人		

2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

- ① 世田谷区グループホーム事業補助、及び同運営費補助に基づく、法外のグループホーム事業である。2003年4月に開設し、現在に至る。「利用者一人一人が安心して自分らしく過ごせる自分の居場所である事、将来の夢を語る場である事」を運営の基本理念とし、個々の支援計画に基づき、平日日中は通所施設を利用し、介護は外部の居宅介護事業所が支援に入っている。入居者の生活管理や食事の提供、夜間の対応は、グループホームスタッフがやっている。
- ② 医療支援については、成城リハケア病院と契約を個々に結び、定期的な訪問診療のほか、急病の時の夜間休日を問わない往診ができる体制になっている。その他、歯科検診やリハビリ、訪問看護等をニーズに合わせて実施している
- ③ 医療支援について個人の旅行は徐々に再開されてきた。地域のイベントにも少しずつ個々の判断で参加し、休日など思い思いに楽しむ事ができた。
- ④ 入居者の会（ドーナツの会）を今年度も実施。グループホーム内でのイベントや開所20周年に向けた話し合いなどを重ねた。20年の振り返りについてはどのような形で行うか検討を続けてきたが、まだ実施できていない。

(2) 地域交流

- ① 法人格砧町自治会の活動に協力している。今年度は8月の盆踊りや9月に行われた地域防災訓練に参加。防災訓練では、「要援護者救護ブース」を担当し、車いすの操作方法や簡易担架の作り方などを参加者に説明した。また、12月恒例の「イルミネーションパトロール」や防犯パトロールにも入居者とともに参加・協力した。

- ② 砧地域のNPOやコミュニティと共催している『ぐるぐるキヌタ』を3回開催した。毎回訪れてくれる人がいたり、ボランティアや寄付の希望など近隣から声をかけてもらえるケースもあったり、少しずつではあるが地域をつなぐイベントとして定着してきている。

(3) 家族、関係機関との連携等

- ① 『きぬたドーナツ通信』を4回発行し、グループホームきぬたの様子や入居者の近況を家族や関係者に伝えた。また、ホームページでも一部公開し、入居者の生活の様子を発信した。
- ② 感染防止策を取りながら、家族会を3回実施、入居者の普段の様子と運営状況を報告した。家族も高齢化が進み、成年後見申請の手続きなどにも協力した。
- ③ 入居者や家族と成年後見人がスムーズに意思伝達できるように、モニタリングなどを通じて情報交換を行なった。
- ④ 入居者の変化を見落とさないように日々の支援の中で直接支援しているヘルパーとの連携を大切にしている。また、感染症予防の一環として罹患の情報があった場合など遅滞なく情報を交換してきた。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

- ① 入居者の点字学習を補佐するボランティアに、今年も2名の協力を得る。
- ② ぐるぐるキヌタを通じてボランティア希望があり、調理などで協力を得る事ができた。
- ③ コロナ禍から活動を再開したボランティアサークルとの交流会や学園祭などへの参加を実施する事ができた。学生たちとの交流は入居者も大いに楽しむ事ができた。
- ④ 法人のホームページやなどを經由して、新規利用希望の問い合わせが何度かあった。

(5) 危機管理

- ① 6月1名、8月2名、10月1名と入居者が新型コロナウイルスに感染した。8月の1名は救急搬送され10日間ほど入院対応となるが、その他の入居者は感染症対応マニュアルに沿って対応し、往診医やヘルパー事業所と連携しながら回復まで約1週間グループホーム内で対応した。事業所内での対応者の動線を最小限にする事で、いずれのケースも集団感染につながらずに終息できた。
- ② 感染時の対応がヘルパーの派遣事業所によって異なり、事業所内での支援体制や感染対策に多少の差異が生じた。今後に向けての課題となっている。

(6) 職員研修の実施

- ① 法人で導入した動画研修「サポーターズカレッジ」を各自視聴した。また、「虐待防止」や「メンタルヘルス」、「腰痛予防」の法人研修に参加したが、支援体制の確保が難しい事もあり非常勤職員の参加までは実現できなかった。
- ② 管理者が、日本グループホーム学会が主催する意思決定支援をテーマとしたオンライン研修を受講した。

(7) その他（苦情・事故等）

- ① 事故 6件
新型コロナウイルスに入居者が感染（4件）
誤薬（2件） GHスタッフが投薬する薬を間違えて指示し、ヘルパーが指示のまま投薬する
- ② ヒヤリハット 8件
連絡ミス（4件）
その他（4件） 誤薬、文字盤の置き忘れ、財布の返却忘れなど

3 重点目標への取り組み・成果

① 20周年のあゆみを踏まえ、グループホームきぬたの独自性を発信する

法人のホームページや広報紙などを通じてグループホームの日々の様子や事業の独自性などは発信する事ができた。20年間の積み重ねをどのように振り返るかは、継続して検討している。

② 入居者それぞれの人生マップを作成し、将来にわたって自分らしい生活の実現を目指す

コロナ禍でできなかった各自の楽しみ（旅行や外出、色々な人との交流など）は、個々に計画を立てて実行する事ができ、休日などを含め豊かな生活時間を過ごす事ができていた。

5年後、10年後の生活を見越してガンなどを含めた生活習慣病の特定健診など健康面への配慮を中心にサポートを行なった。

また、成年後見人制度の利用に向けて入居者や家族へのサポートを行った。

③ 地域の中で役割を持って暮らし、より広い人たちと繋がる

近隣コミュニティとの「ぐるぐるキヌタ」を定期的で開催した事で、毎回参加してくれる方も出てきて、入居者も地域とのつながりを実感する事ができた。

引き続き砧町自治会活動への協力（防災訓練や防犯パトロールなど）を入居者と一緒に行った。入居者自身が地域の中で役割を持って暮らしている事を自覚する機会を得る事ができたとともに、地域住民にグループホームが認知されるよう取り組んできた。